様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　９ 月 １９ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ１３６７２

研究課題名（和文）ポスト基礎付け主義時代におけるデモクラシーの行方：アゴニズムの民主主義論を中心に

研究課題名（英文）The Future of Democracy in Times of Post-Foundationalism

研究代表者
山本　圭（Yamamoto, Kei）

立命館大学・法学部・准教授

研究者番号：９０７２０７９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、基礎付け主義とも反基礎付け主義とも異なる「ポスト基礎付け主義」(Oliver Marchart, Post-Foundational Political Thought: Political Difference in Nancy, Lefort, Badiou and Laclau)という立場に立脚しながら、民主主義の今後を構想するものである。本研究では、既存の代表制民主主義を問い直しつつ、またラディカル・デモクラシー論のありうべき方向として「アゴニズム（闘技民主主義）」の立場を擁護した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、基礎付け主義や反基礎付け主義とも異なる第三の選択肢として、ポスト基礎付け主義という立場を明らかにしたことが挙げられよう。またそれにともない、民主主義のメインストリームである熟議民主主義の対抗軸として、あらためてアゴニズムの議論に着目したことも重要な貢献である。民主主義社会において異論を唱える自由や意見の多様性は重要であり、したがってアゴニズムの議論を打ち出すことの社会的意義は明らかである。

研究成果の概要（英文）：This research is based on the position of "post-foundationalism" (Oliver Marchart, Post-Foundational Political Thought: Political Difference in Nancy, Lefort, Badiou and Laclau), which is different from foundationalism and anti-foundationalism. In this study, while questioning the existing representative democracy, I advocated the position of "agonism" as a possible direction for radical democratic theory. In particular, I focused on recent trends related to the institutionalization of agonism, and aimed to differentiate it from deliberative democracy, which is the mainstream in contemporary democracy theory.

研究分野：現代政治理論、民主主義論

キーワード：現代民主主義　アゴニズム　ポスト基礎付け主義

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、ラディカル・デモクラシー論は「基礎付け主義」を批判し、「ポスト基礎付け主義」という政治的態度を打ち出したものとして位置付けられる（Laclau, *New Reflections*, 1990, Marchart *Post-Foundational Political Thought*, 2007）。一般に「基礎付け」とは、伝統的な形而上学的真理、歴史の本質やその隠された意味を求める歴史哲学、理性／合理性とそれを備えた主体観のように、まさに知のシステムの土台としてシステムそのものを支える正統性の源泉であり、「基礎付け主義」とはそのような基礎付けを土台として据えようとする態度を指している（Rorty, *Philosophy and the Mirror of Nature,* 1979）。しかし現代社会においてはもはや、このような基礎付けを安易に前提とすることは難しい。他方で、いっさいの基礎付けを不要とする「反基礎付け主義」の立場を取ることもできない。

そこで近年「ポスト基礎付け主義」という考え方が注目されている。ポスト基礎付け主義とは、不問の基礎付けが存在しないことを認めるものの、とはいえあらゆる基礎付けの必要性を峻拒しない政治的立場である。言い換えれば、それは、何らかの基礎付けの不可避性は認めつつも、しかしその基礎付けは不変のものではなく、飽くまで一時的で不安定なものであると考えるのである。

このような政治的態度は、今日、世界的に主流となっている「熟議民主主義」とは異なるデモクラシーの構想を必要とする。というのも、熟議民主主義は理性的なコミュニケーションによって「討議空間」を基礎付けるからである。これに対し、本研究ではポスト基礎付け主義と適合しうる民主主義論を「アゴニズムの民主主義論」（闘技民主主義）に求める。「アゴニズム」とは政治に対立や敵対性の契機を見出し、それらを政治に不可欠として擁護する立場を指す。

２．研究の目的

本研究の目的は、ポスト基礎付け主義時代における、アゴニズムの民主主義論の現代的意義と可能性を明らかにすることである。そのさい、アゴニズムの理論的特性を明らかにすることにくわえ、アゴニズムと制度との関係に着目して研究を進める。

３．研究の方法

本研究は以下の三点に分けて遂行される。

（1）本邦ではまだ十分知られていない「ポスト基礎付け主義」の政治理論を、ラディカル・デモクラシー論との関係において明らかにする。ここではポスト基礎付け主義の理論家としてクロード・ルフォール、ハンス・ケルゼン、エルネスト・ラクラウらの思想に着目して研究を進める。

（2）アゴニズムの民主主義論はこれまで、熟議民主主義との対比において補足的に検討されるに留まり、その理論的意義が十分に展開されたとは言いがたい。本研究ではこの理論的潮流の複数の系譜（シャンタル・ムフのシュミット・モデル、ウィリアム・コノリーのニーチェ・モデルなど）に着目し、近年の議論も含め、アゴニズムの民主主義論の構想の内的関係と全体像を整理する。

また、近年の民主主義論では、理論をいかにして制度に落とし込むかということが積極的に問われている。たとえば熟議民主主義ではかねてより、いかに討議空間を設計するかということに関心が集まり、ミニ・パブリクス論や討論型世論調査について積極的な検討が進んできているという経緯がある。それに対し、熟議モデルに対抗するかたちで現れた闘技民主主義のほうは、この検討はほとんど進んでおらず、いまだ緒に就いたばかりと言ってよい。そこで本研究では、熟議モデルに比して、アゴニズムの民主主義論の弱点と考えられていた「制度化」にかかわる議論も視野に入れ、検討を進める。

（3）上記を綜合し、熟議民主主義ではなくアゴニズムの民主主義論こそがポスト基礎付け主義の政治理論と適合することを示す。

４．研究成果

研究成果として、現代民主主義論におけるアゴニズムの可能性と問題点を明らかにすることができた。具体的な成果については業績欄を参照のこと。具体的には、対立や敵対、異議申し立ての政治的な意義を説く闘技民主主義についてあきらかにすることで、熟議民主主義とは異なる民主主義のヴィジョンを示すことができたと考える。また、アゴニズム、およびラディカル・デモクラシーにかんして、欧州やアジア圏など、国内外での研究者との非常に有意義な交流も生まれ、今後の研究活動にむすびつくことは間違いない。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 山本圭	４．巻 51(15)
２．論文標題 公共と情念ーーいつか来る感情政治学のためのノート	５．発行年 2023年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 157-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山本圭	４．巻 78(9)
２．論文標題 誇示考	５．発行年 2023年
３．雑誌名 群像	６．最初と最後の頁 206-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山本圭	４．巻 2020-II
２．論文標題 指導と民主主義ーー民主的リーダーシップをもとめて	５．発行年 2020年
３．雑誌名 年報政治学	６．最初と最後の頁 82-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山本圭	４．巻 2
２．論文標題 民主主義の自己修復的性質についてーーお祭りデモクラシーと語学学校デモクラシー	５．発行年 2020年
３．雑誌名 対抗言論	６．最初と最後の頁 336-343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 2020/09
2．論文標題 「良き統治」と「良き指導」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 193-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 928
2．論文標題 「批判なき時代の民主主義――なぜアンタゴニズムが問題なのか」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 世界	6．最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 47（6）
2．論文標題 「ポピュリズム――左派ポピュリズムへの走書き」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 94-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 47-3
2．論文標題 「とりあえず連帯すること――ジュディス・バトラーの民主主義論」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『現代思想』	6．最初と最後の頁 217-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 23号
2．論文標題 「New Reflections on Post-Marxism of Our Timeーーポスト・マルクス主義とは何か」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『唯物論研究年誌』	6．最初と最後の頁 76-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 1133号
2．論文標題 「ラディカル・デモクラシーと精神分析」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『思想』	6．最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 45:11
2．論文標題 傍流の位置からーーポスト・マルクス主義のマルクス	5．発行年 2017年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 270-277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本圭	4．巻 4
2．論文標題 嫉妬・正義・民主主義	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ニュクス	6．最初と最後の頁 250-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　1件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 Shiota Jun and Kei Yamamoto
2．発表標題 Thinking Radical Democracy from the Logic of Difference
3．学会等名 Theorizing Global Authoritarianism: To Reclaim Critical Theory Against the Grain（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Kei YAMAMOTO
2．発表標題 The Future of University and Democracy
3．学会等名 ATN Network（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Kei Yamamoto
2．発表標題 The Future of Democracy after Populist Times
3．学会等名 Democracy, Violence, Populism: Situating Japanese Politics in Turbulent Times（Workshop）
4．発表年 2023年

1．発表者名 山本圭
2．発表標題 指導者とデモスーーシティズンシップからフォロワーシップへ
3．学会等名 政治思想学会全国大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 Kei Yamamoto
２．発表標題 “Envy and Democracy"
３．学会等名 Fascism? Populism? Democracy?”, Critical Theories in a Global Context
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kei Yamamoto
２．発表標題 “New Reflections on Post-Marxism of Our Time”
３．学会等名 The First International Young Scholars Forum of Marxism
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kei Yamamoto
２．発表標題 “Populism and Pluralism, Revisited”
３．学会等名 International Political Science Association
４．発表年 2018年

１．発表者名 山本圭
２．発表標題 指定討論：ポスト基礎付け主義と規範の行方―政治と教育から問いなおす―
３．学会等名 教育思想史学会第27回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 山本圭
２．発表標題 なぜ民主主義論は精神分析を必要とするのか？――欠如・対象a・享楽
３．学会等名 第42回社会思想史学会 大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計9件

１．著者名 山本圭	４．発行年 2024年
２．出版社 光文社	５．総ページ数 256
３．書名 嫉妬論――民主社会に渦巻く情念を解剖する	

１．著者名 山崎望編（山本圭）（論文名「アゴニズムを制度化する」）	４．発行年 2022年
２．出版社 法政大学出版局	５．総ページ数 306
３．書名 『民主主義に未来はあるのか？』	

１．著者名 山本圭	４．発行年 2021年
２．出版社 中央公論新社	５．総ページ数 272
３．書名 現代民主主義	

1．著者名 野口雅弘・山本圭・高山裕二（編）	4．発行年 2021年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 208
3．書名 よくわかる政治思想	

1．著者名 山本圭	4．発行年 2020年
2．出版社 共和国	5．総ページ数 277
3．書名 『アンタゴニズムスーーポピュリズム〈以後〉の民主主義』	

1．著者名 大賀哲・仁平典宏・山本圭（編）	4．発行年 2019年
2．出版社 法律文化社	5．総ページ数 236
3．書名 『共生社会の再構築IIーーデモクラシーと境界線の再定位』	

1．著者名 シャンタル・ムフ（山本圭・塩田潤訳）	4．発行年 2019年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 152
3．書名 『左派ポピュリズムのために』	

１．著者名 松本卓也・山本圭（編）	４．発行年 2018年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 272
３．書名 『つながりの現代思想――社会的紐帯をめぐる哲学・政治・精神分析』	

１．著者名 ヤニス・スタヴラカキス（著）、山本圭、松本卓也（訳）	４．発行年 2017年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 464
３．書名 『ラカニアン・レフトーーラカン派精神分析と政治理論』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関